南山大学大学院
入学試験問題集

人間文化研究科

教育ファシリテーション専攻

2026年度・春季

NANZAN UNIVERSITY

目　　次

≪修士課程≫

小論文　〔一般入学試験〕……1
〔社会人入学審査〕……6

２０２６年度南山大学大学院 人間文化研究科 教育ファシリテーション専攻（２０２６年４月入学）
＜修士課程＞一般入学試験

（２０２６年２月２１日実施）　試験科目：小論文　配点：１００点

（問　題　紙）

問題紙がこの頁を含めて５ページ、解答紙が４ページあるか確認してください。

問題は全部で４問です。すべての問題に解答してください。

解答はすべて、解答紙の指定された欄に記入してください。

問題 1

以下の各語について、簡潔に説明しなさい。

① 内的作業モデル（IWM）

② 選択的注意バイアス

③ 「個別最適な学び」

④ 適応指導教室

⑤ T グループ

⑥ ガーゲンが提唱した社会構成主義

問題 2

以下の図表（Table 1、Figure 1）は、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が行った「子どもの生活と学び」プロジェクトについて、2018 年調査と 2024 年調査の結果の概要から抜粋したものです。いずれの年も 3 月～4 月に実施されており、2018 年の調査では、高校 3 年生 975 名（回収率 69.6%）、2024 年の調査では、高校 3 年生 717 名（同 52.3%）から回答が得られています。

「あなたは進路選択にあたって、次のことに悩んだことがありましたか」という設問に続き、図表に示された各項目について尋ねています。Table 1 には、各項目について選択肢の中から「よくあった」と「ときどきあった」という回答を合わせた割合を年別に記しています。

また、Figure 1 は、2024 年調査のデータをもとに、入学難易度・入試方式別に分けて図示したものです。2024 年 4 月から「四年制大学」もしくは「短期大学」に進学し、進学先の偏差値（生徒による自己評価）および入試方式を回答した 391 名を分析対象としています。入試方式について、「一般入試（大学入学共通テストの利用を含む）」は「一般入試」、「一般推薦」、「指定校推薦」「AO 入試（総合型選抜）」、「附属校からの進学」、「その他」、「入試はなかった」を合わせて「年内入試」としてカテゴリー化しています。

設問

① Table 1 と Figure 1 の両方を参照し、示されたデータから読み取れる内容を記述しなさい。なお、原因や背景の推測は含めず、数値や項目の比較などデータから直接読み取れる内容に限定すること。

② あなたが「高校生の進路選択に関する悩み」について論じるレポートを作成すると仮定します。以下のいずれかの観点から、このテーマに関する研究上の問い（リサーチクエスチョン）や、高校生の進路選択上の悩みに関する仮説を設定し、その内容を簡潔に説明しなさい。また、設定したリサーチクエスチョンや仮説を検討するために、Table 1 や Figure 1 のデータに加えて、新たに必要なデータや情報（例：追加の調査項目・変数・属性情報など）を挙げ、それらがリサーチクエスチョンや仮説の検証にどのように必要なのかを説明しなさい。

観点：

(a) 進路情報の収集や活用の状況（情報行動・リテラシー）

(b) 自己理解や職業理解の程度（キャリア理解）

(c) 家庭・学校・友人からの支援の状況（支援環境）

(d) 経済的な条件（教育費・奨学金など）

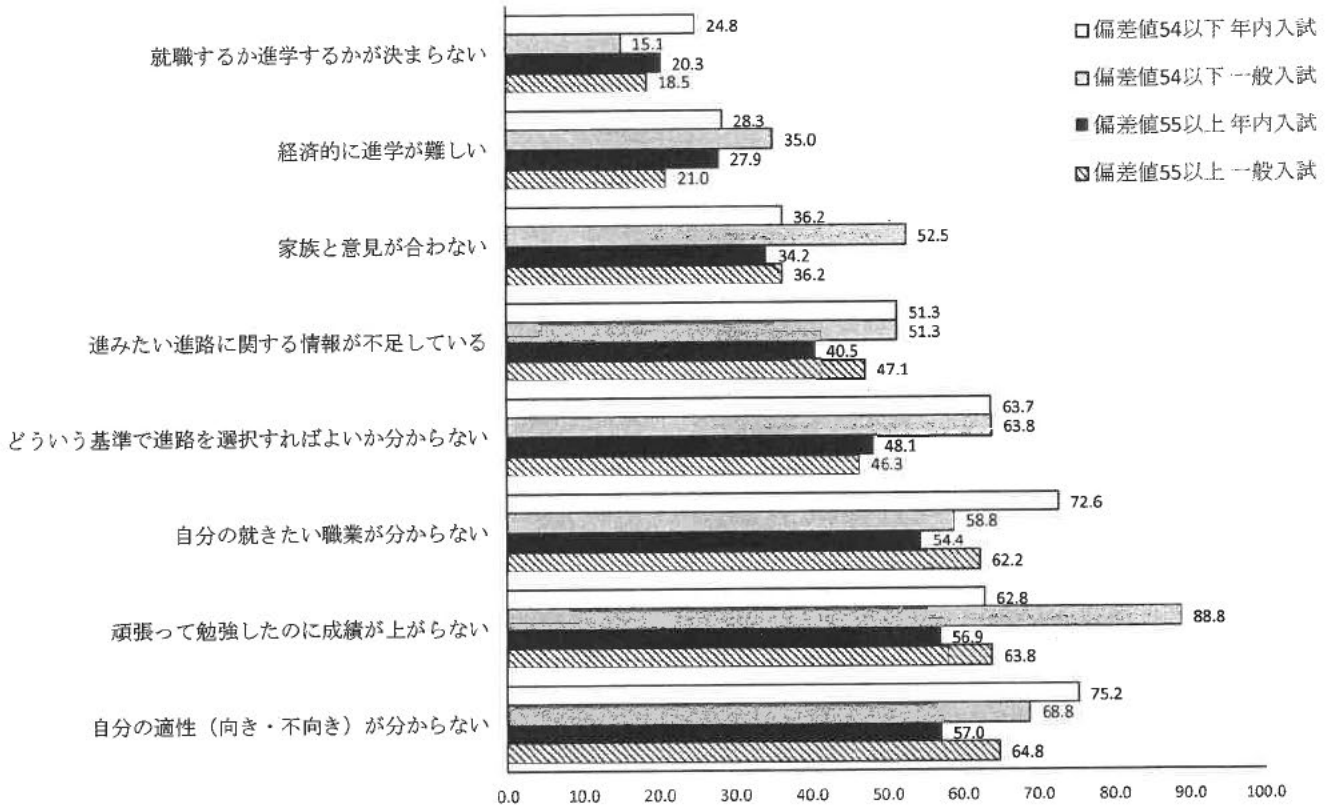
Table 1
進路選択の悩み（調査対象者全体）（%）

	2018年	2024年	変化
就職するか進学するかが決まらない	17.9	23.4	5.5
経済的に進学が難しい	26.8	27.3	0.5
家族と意見が合わない	36.6	39.5	2.9
進みたい進路に関する情報が不足している	36.4	47.2	10.8
どういう基準で進路を選択すればよいか分からない	46.8	56.0	9.2
自分の就きたい職業が分からない	59.6	61.3	1.7
頑張って勉強したのに成績が上がらない	60.4	61.9	1.5
自分の適性（向き・不向き）が分からない	62.6	65.7	3.1

注1　「あなたは進路選択にあたって，次のことに悩んだことがありましたか」という設問
注2　表中の数値は「よくあった」＋「ときどきあった」の%

Figure 1

進路選択の悩み（大学・短大進学者、入学難易度・入試方式別、2024 年調査）（%）



注１　表中の数値は「よくあった」＋「ときどきあった」の%。

注２　2024 年 4 月から「四年制大学」もしくは「短期大学」に進学し、進学先の偏差値（自己評価）および入試方式を回答した391 名を分析。

注３　入試方式について、「一般入試（大学入学共通テストの利用を含む）」は「一般入試」、「一般推薦」、「指定校推薦」「AO 入試（総合型選抜）」、「附属校からの進学」、「その他」、「入試はなかった」を合わせて「年内入試」とした。

出典：

東京大学社会科学研究所・ ベネッセ教育総合研究所共同研究 「高校生活と進路に関する調査 2024」

問題 3

以下の文章は、組織における“meritocracy（能力主義）”の影響について論じた論文の一部である。

本論文での能力主義とは、性別等の属性ではなく、個人の能力や業績のみを客観的な基準として評価・処遇しようとする理念を指す。本論文では、組織がこの理念を明示的に掲げている場合、公平性が高まることはなく、むしろ管理職が男性を優遇するバイアス（偏り）を示しやすくなる現象を実証し、これを“paradox of meritocracy（能力主義の逆説）”と呼んでいる。

以下の抜粋は、この逆説が生じる心理的メカニズムの一つである“moral credentials”について論じた箇所である。文章を読み、後の設問に日本語で答えなさい。

One mechanism is the role of moral credentials: (1) individuals are more prone to express prejudiced attitudes when they feel that they have established their moral credentials as a non-prejudiced person (Monin and Miller, 2001). The moral credentials argument is consistent with our prediction that managers making decisions about employees on behalf of an organization will be more likely to discriminate against women when that organization explicitly promotes itself as meritocratic. When the culture of an organization includes the strong belief that the organization is meritocratic, and particularly when managers themselves explicitly endorse this belief, this serves as a form of meritocratic moral credentialing that makes future bias more likely. An organizational culture that prides itself on meritocracy may encourage bias by convincing managers that they themselves are unbiased, which in turn may discourage them from closely examining their own behaviors for signs of prejudice.

＜出典＞ Used with permission of Sage Publications Inc. Journals, from The Paradox of Meritocracy in Organizations by Emilio J. Castilla et al., December 1, 2010; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

注）

- moral credentials：直訳すると「道徳的証明」となるが、ここでは、自身が偏見のない人物であるというお墨付きを得たという心理的感覚を指す。

設問

① 下線部（1）に基づき、“moral credentials” を得ることによって生じる「傾向」について、日本語で説明せよ。

② 管理職（managers）が “moral credentials” を得ていくプロセスとその影響について、以下の２点に触れて説明せよ。

(a) 成立の条件となる先行要因二つを挙げよ。

(b) それが最終的にどのような結果（自己認識の変化と行動への影響）を招くのか、本文に即して説明せよ。

問題 4

以下の言葉をキーワードとして、あなたの主張を 720～800 文字で述べなさい。

「利他」

（問　題　紙）

問題紙がこの頁を含めて５ページ、解答紙が４ページあるか確認してください。

問題は全部で４問です。すべての問題に解答してください。

解答はすべて、解答紙の指定された欄に記入してください。

問題 1

以下の各語について、簡潔に説明しなさい。

① 内的作業モデル（IWM）

② 選択的注意バイアス

③ 「個別最適な学び」

④ 適応指導教室

⑤ T グループ

⑥ ガーゲンが提唱した社会構成主義

問題 2

以下の図表（Table 1、Figure 1）は、東京大学社会科学研究所とベネッセ教育総合研究所が行った「子どもの生活と学び」プロジェクトについて、2018 年調査と 2024 年調査の結果の概要から抜粋したものです。いずれの年も 3 月～4 月に実施されており、2018 年の調査では、高校 3 年生 975 名（回収率 69.6%）、2024 年の調査では、高校 3 年生 717 名（同 52.3%）から回答が得られています。

「あなたは進路選択にあたって、次のことに悩んだことがありましたか」という設問に続き、図表に示された各項目について尋ねています。Table 1 には、各項目について選択肢の中から「よくあった」と「ときどきあった」という回答を合わせた割合を年別に記しています。

また、Figure 1 は、2024 年調査のデータをもとに、入学難易度・入試方式別に分けて図示したものです。2024 年 4 月から「四年制大学」もしくは「短期大学」に進学し、進学先の偏差値（生徒による自己評価）および入試方式を回答した 391 名を分析対象としています。入試方式について、「一般入試（大学入学共通テストの利用を含む）」は「一般入試」、「一般推薦」、「指定校推薦」「AO 入試（総合型選抜）」、「附属校からの進学」、「その他」、「入試はなかった」を合わせて「年内入試」としてカテゴリー化しています。

設問

① Table 1 と Figure 1 の両方を参照し、示されたデータから読み取れる内容を記述しなさい。なお、原因や背景の推測は含めず、数値や項目の比較などデータから直接読み取れる内容に限定すること。

② あなたが「高校生の進路選択に関する悩み」について論じるレポートを作成すると仮定します。以下のいずれかの観点から、このテーマに関する研究上の問い（リサーチクエスチョン）や、高校生の進路選択上の悩みに関する仮説を設定し、その内容を簡潔に説明しなさい。また、設定したリサーチクエスチョンや仮説を検討するために、Table 1 や Figure 1 のデータに加えて、新たに必要なデータや情報（例：追加の調査項目・変数・属性情報など）を挙げ、それらがリサーチクエスチョンや仮説の検証にどのように必要なのかを説明しなさい。

観点：

(a) 進路情報の収集や活用の状況（情報行動・リテラシー）

(b) 自己理解や職業理解の程度（キャリア理解）

(c) 家庭・学校・友人からの支援の状況（支援環境）

(d) 経済的な条件（教育費・奨学金など）

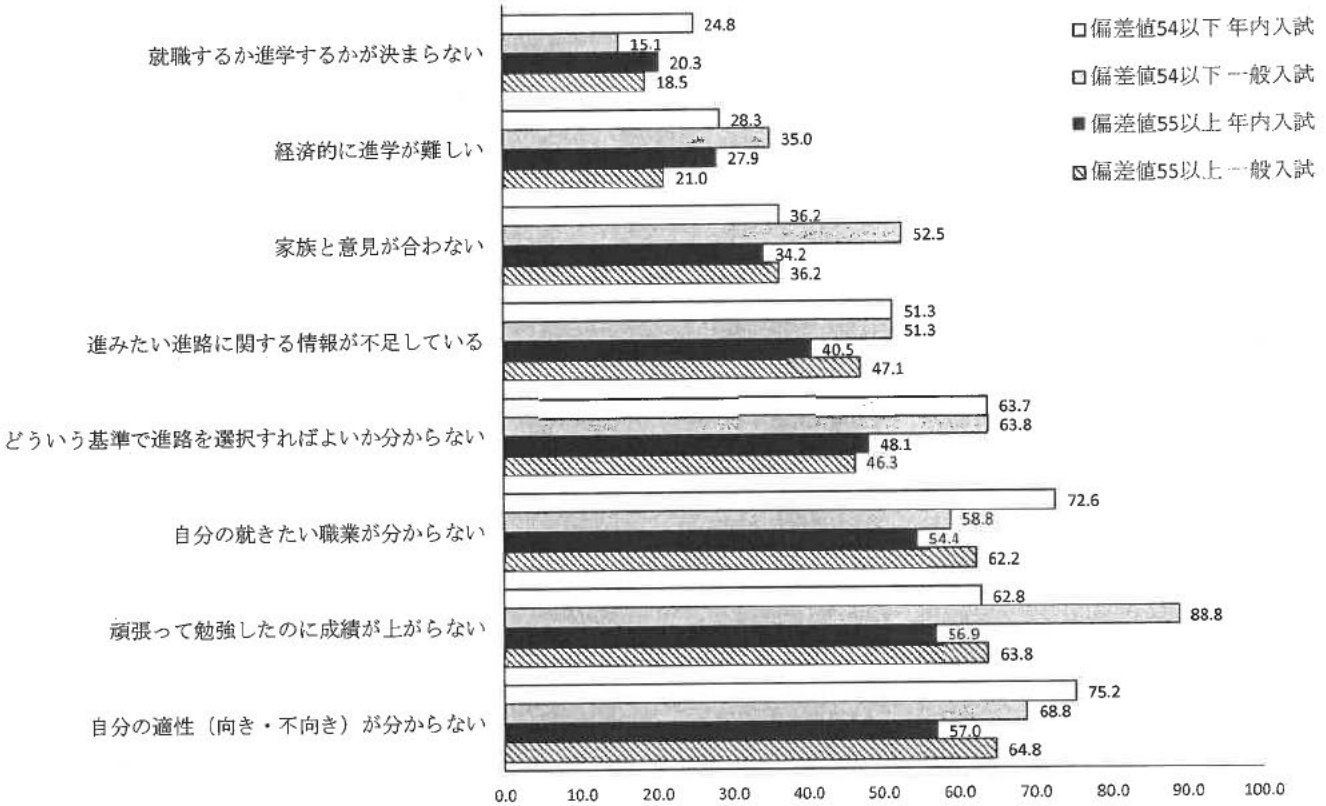
Table 1
進路選択の悩み（調査対象者全体）（%）

	2018年	2024年	変化
就職するか進学するかが決まらない	17.9	23.4	5.5
経済的に進学が難しい	26.8	27.3	0.5
家族と意見が合わない	36.6	39.5	2.9
進みたい進路に関する情報が不足している	36.4	47.2	10.8
どういう基準で進路を選択すればよいか分からない	46.8	56.0	9.2
自分の就きたい職業が分からない	59.6	61.3	1.7
頑張って勉強したのに成績が上がらない	60.4	61.9	1.5
自分の適性（向き・不向き）が分からない	62.6	65.7	3.1

注1　「あなたは進路選択にあたって，次のことに悩んだことがありましたか」という設問
注2　表中の数値は「よくあった」＋「ときどきあった」の%

Figure 1

進路選択の悩み（大学・短大進学者、入学難易度・入試方式別、2024 年調査）（%）



注１　表中の数値は「よくあった」＋「ときどきあった」の%。

注２　2024 年 4 月から「四年制大学」もしくは「短期大学」に進学し、進学先の偏差値（自己評価）および入試方式を回答した 891 名を分析。

注３　入試方式について、「一般入試（大学入学共通テストの利用を含む）」は「一般入試」、「一般推薦」、「指定校推薦」「AO 入試（総合型選抜）」、「附属校からの進学」、「その他」、「入試はなかった」を合わせて「年内入試」とした。

出典：

東京大学社会科学研究所・ ベネッセ教育総合研究所共同研究 「高校生活と進路に関する調査 2024」

問題３

以下の文章は、組織における“meritocracy（能力主義）”の影響について論じた論文の一部である。

本論文での能力主義とは、性別等の属性ではなく、個人の能力や業績のみを客観的な基準として評価・処遇しようとする理念を指す。本論文では、組織がこの理念を明示的に掲げている場合、公平性が高まることはなく、むしろ管理職が男性を優遇するバイアス（偏り）を示しやすくなる現象を実証し、これを“paradox of meritocracy（能力主義の逆説）”と呼んでいる。

以下の抜粋は、この逆説が生じる心理的メカニズムの一つである“moral credentials”について論じた箇所である。文章を読み、後の設問に日本語で答えなさい。

One mechanism is the role of moral credentials: (1) individuals are more prone to express prejudiced attitudes when they feel that they have established their moral credentials as a non-prejudiced person (Monin and Miller, 2001). The moral credentials argument is consistent with our prediction that managers making decisions about employees on behalf of an organization will be more likely to discriminate against women when that organization explicitly promotes itself as meritocratic. When the culture of an organization includes the strong belief that the organization is meritocratic, and particularly when managers themselves explicitly endorse this belief, this serves as a form of meritocratic moral credentialing that makes future bias more likely. An organizational culture that prides itself on meritocracy may encourage bias by convincing managers that they themselves are unbiased, which in turn may discourage them from closely examining their own behaviors for signs of prejudice.

＜出典＞ Used with permission of Sage Publications Inc. Journals, from The Paradox of Meritocracy in Organizations by Emilio J. Castilla et al., December 1, 2010; permission conveyed through Copyright Clearance Center, Inc.

注）

- moral credentials：直訳すると「道徳的証明」となるが、ここでは、自身が偏見のない人物であるというお墨付きを得たという心理的感覚を指す。

設問

① 下線部（1）に基づき、“moral credentials” を得ることによって生じる「傾向」について、日本語で説明せよ。

② 管理職（managers）が “moral credentials” を得ていくプロセスとその影響について、以下の 2 点に触れて説明せよ。

(a) 成立の条件となる先行要因二つを挙げよ。

(b) それが最終的にどのような結果（自己認識の変化と行動への影響）を招くのか、本文に即して説明せよ。

問題 4

以下の言葉をキーワードとして、あなたの主張を 720～800 文字で述べなさい。

「利他」

発行：南山大学　入学センター
名古屋市昭和区山里町 18 番地
Phone ： (052)832-3119
E-mail ： nyushi-ka@nanzan-u.ac.jp
ＵＲＬ： https://www.nanzan-u.ac.jp/